



2月号

ひだまり

今月のエッセー

誕生日

諸人よ 思い知れかし 己が身の

誕生の日は 母苦難の日

(作者不明)



今月の二十七日、私は二十八回目の誕生日を迎えます。自分が生まれた月ということもあり、二月は私にとって一年の中でも特別な思いのする月です。

小さい頃から、私は誕生日が大好きでした。家族からおもちやなどのプレゼントをたくさんもらい、祝ってもらえるこの日を、いつも待遠しく思っていたものです。

そんな風に単純に大好きだった誕生日ですが、より一層特別な思いのする日へ

編集後記



如月。年度の瀬が迫って参りました。立春も過ぎ、暦の上ではもう春。そして来月は弥生。門出の月です。

この時節、街を歩いていると自動車学校の教習車をよく見かけます。ハンドルを握っているのは大抵、高校生くらいと見受けられる若葉のドライバー。否、若葉というより、まだ種なのでしょう。しかし、その表情を見るに、芽吹き準備は順調なようです。頑張れ！

そして、我らが三年生、中野太秀さん・畔柳公潤さんも今月の訪問を最後に、それぞれの道へ旅立っていきます。寂しさは思い出ゆえ。ご縁に感謝の三月となりそうです。◆田代浩潤

発行 曹洞宗総合研究センター教化研修部門

〒一〇五・八五四四

東京都港区芝二・五・二曹洞宗宗務庁内

☎〇三・三四五四・六八四四

と変化した出来事がありました。

それは大学一年生の誕生日のことです。私は冗談交じりで一人の同級生にむかって、「今日は俺の誕生日だからお祝いしてよ」と声をかけました。

すると、その同級生は、「もちろん祝ってあげるけど、お前、一つ勘違いしてるよ。誕生日は祝ってもらうだけじゃなくて、お前が親に向かって産んでもらったお礼をいう日でもあるんだからな。」

そういつて教えてくれたのが最初の話です。毎年、みんなに祝ってもらえる私の誕生日は、実は私を産んでくれた母親にとって、命がけの苦難の日でもあったのです…。

そのことに気がついた時、誕生日はお祝いしてもらいものと思いついてきたそれまでの自分をとても恥ずかしく感じたのでした。以来、私にとっての誕生日は、母に感謝の気持ちを伝える特別な日へと変化したのです。

もうすぐ誕生日。今年も母に「ありがとう」を伝えたいと思います。

◆竹村信彦

修行体験記 「私の気づき」

大本山總持寺での修行が始まってから半年ほど経った時のことです。広い總持寺の中での私の持ち場が変わりました。

次に私の持ち場となったのは「知客寮」という部署です。總持寺には毎日多くの方が参拝に訪れます。また、週末になると、檀信徒の年回法要が多く行われます。そういう方々の対応をすることが知客寮の勤めなのです。

しかし、私はそれらの勤めになかなか慣れることが出来ませんでした。失敗をして先輩の修行僧に叱られることを恐れ、いつもビクビクし

ながら生活していたのです。

ある日、檀信徒の墓前の供養に必要な卒塔婆の準備を忘れてしまい、私はすぐさま先輩に謝りました。しかし、その先輩からはこう言われたのでした、

「私ではなく、お施主さんに謝りなさい」

その時、私は気付いたのでした。知客寮にとって大切なこと、それは私が卒なく勤めをこなしていくことではなく、檀信徒や参拝者が気持ちよくお参り出来るように精一杯努めることだったのでした。

◆國生徹雄



特別企画

『甲子なら三年度生』



ルンビニ合掌苑では「こういった法話で大丈夫かな？」
 「レクリエーション、ちゃんと楽しめるかな？」といった不安の中で、いつも緊張してしまっていたように思います。そんな中、「今日はありがとう」「来月は来るの？」といった言葉をいただけた時はとても嬉しかったです。毎回の昼食を一緒に過ごす時間も、楽しくも勉強になる面白いお話を聞かせていただき、いつも心地良い時間を過ごせました。長いようで短い三年間、ありがとうございました。皆様のご健康を祈りつつ、また私自身も皆様に負けないよう、より一層精進していききたいと思えます。

◆中野太秀なかのたいしゅう

気付けばもう三年間の月日が過ぎ、私は時間の流れに取り残されてしまったかのように、今もその実感が湧きません。けれども、皆さんとの時間を思い返してみれば、その時々風景が私の過ごした三年を物語ってくれています。
 「法話の資料で詩を載せるなら、縦書きでないとねえ。」
 「若いつてのはねえ、動けるってことだよ。」
 「貴方の手相は、お寺を継ぐ手相だね！」
 助言や励まし、占い鑑定：たくさんさんの思い出が今の私の支えです。ルンビニの皆さんのように、いいシワを刻みたい！切に、そう思わせていただきました。

合掌◆畔柳公潤くわんりゅうこうじゆん

いろんな仏様

『跋陀婆羅菩薩』

今月は、曹洞宗の修行道場で浴室に祀られている仏様、跋陀婆羅菩薩です。

跋陀婆羅とはインドの言葉でバドラパーラといい、中国では「善守」や「賢護」とも訳されました。

跋陀婆羅菩薩が修行中、入浴のために浴室に入ったある時のこと。身体を洗う前に忽然として、自己と水は一体であり、水は人間の所有物ではなく、誰のものでもないのだ、ということに気づきました。

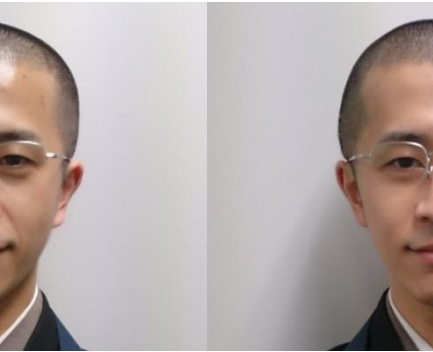
そして、それと同時に、この自分の身体も水と同様に身勝手に扱うものではなかったのだ、ということを理解されたといいます。

この故事にならない、現在も修行道場の浴室を見守る仏様として、お祀りされているのです。

◆田中仁秀たなかじんしゅう



私の〇〇自慢



『謙虚な田代、
自慢します』



最も苦手とする記事が廻って来てしまいました(笑) 私は自分のことがあまり好きではない、というよりむしろ嫌いで、皮肉にも自己に対する評価の低さには自信があります。そんなわけで、私にとって自慢は結構難儀なことなのです。

そんな私が敢えて自身の自慢を挙げるとすれば、「謙虚であること」でしょうか。自分に対する評価が低い分、私は何をするにおいても周囲に対し、どことなく負い目を感じてしまいます。それ故、「謙虚でなくては」という強迫的な気持ちが私には常にあります。言うなれば自分嫌いの賜物でしょうか。「悲観的すぎる！」とお叱りを受けてしまいそうですね。でも、その自分嫌いが謙虚さをもたらしてくれているのです。

そう思うと、物事にポジティブもネガティブもないじゃないか、そんな風にも思えてきます。

◆田代浩潤たしろこうじゆん